

議会だより

平成25年
第2回6月定例会

平成25年第2回定例会は、6月7日開会され、国民健康保険税条例の一部を改正する条例に係る専決承認案件1件、補正予算案件4件、条例案件2件、報告案件1件のあわせて8件の審議を行い、原案どおり可決、承認し、6月14日閉会しました。

現在の取組状況

佐那河内村長 原 仁志

まず、3月議会以降にあった主な事柄として、2点報告します。

1点目、『徳島からの提言』中間報告」の要望活動について。

平成22年度に改正された現行過疎法が平成27年度末まで延長することになり、中間年にあたって平成24年度に徳島県は制度内容の見直し検討を行い、その内容を「徳島からの提言」としてまとめたものです。この提言の中には、過疎対策事業における都道府県の役割強化、防災拠点施設となる庁舎の耐震化や移転等の推進、老朽化した公共施設の更新及び解体、撤去の推進、農山漁村における再生可能エネルギーの導入促進など、本村にも重要な事柄が含まれています。

2点目、徳島市が進めています新拠点都市創造検討会議について。

徳島東部地域の発展に向けた新たな拠点都市づくりについて検討する組織で、去る5月24日に設置されました。この組織には、本村と小松島市が参加しました。今後は体制整備やスケジュールなどの協議が始まります。この参加には、本村の大幅な人口減少や高齢化、さらには道州制の議論などから、いずれは到来することが予想される地方自治体の再編をも見据えた村の将来像を想定する

ことが重要と考え、参加しました。村民の皆さまには、合併についていろいろとご心配をおかけしていますが、この会議は合併ありきではありません。今後も、皆様にこの会議の情報をお知らせしますので、よろしくお願ひします。

平成25年度に取り組むべき主要な施策と今後の新たな対策について。

○人口、若者定住対策について

去る3月に、国の機関が我が国の人口推計を発表していますが、その数値が各自治体に衝撃を及ぼしています。佐那河内村についても、平成22年には2,588人であった人口が、これから27年後の平成52年には1,428人まで、約44.8%の人口減少と推計されました。加えて、2人に1人が65歳以上の高齢者の村となることもあわせて発表されています。

若者定住の魅力的な対策を進め、本村でも本年度からこのことに本格的に取り組む準備を進めています。本議会でも定住促進活性化事業、定住促進集落支援事業などの補正予算を計上しました。今後、さらに内容の精度を高め、9月議会ではさらに内容の濃い事業として皆さまに周知、協力をお願いします。

○防災・減災対策について

東日本大震災や毎年襲来する台風災害を勘案すると、防災拠点として

の公共施設の耐震化が急がれています。本村では、本年度に入り、村民体育館の耐震工事を発注しました。保健センターも工事発注に向け準備中です。役場庁舎の耐震化については、平成24年度までに2次診断が終了していますが、診断の結果として、地震の振動及びその衝撃により倒壊もしくは崩壊する危険性が高い建物であると示されました。

このようなことから、早急に対策の方向を決定しなければならない時期が迫っています。今後、村の財政的なことなどを多面的に検討し、村民や議会の皆さまとも協議を重ね、早く方向性を出せるよう努力します。

さらに、平成25年度当初予算で計上されました消防救急デジタル無線整備事業については、現在、勝浦、上勝の両町と協議を進めています。また、消防団第1分団詰所整備事業についても、早い工事着工を目指します。

○弱者対策としての高齢者の外出支援策について

本年度も試行的にタクシー券により補助を行っていますが、本年度は村社会福祉協議会で過疎地有償運送の実証実験を予定しています。しかし、村内の公共交通事業者との調整に少し時間が必要です。村内で厳しい生活を強いられている村民の足を確保することと村民の公共交通を守

ることとを前提とし、これからも鋭意努力します。

○村民の健康増進や介護予防について

本村の国民健康保険会計を例にとると、村民1人当たりの医療給付費が年間30万円以上の額となっています。本村の財政圧迫の大きな原因になることがごく近い将来考えられ、今後は医療給付費に財源を注ぐのではなく、健康増進、健康維持に力を入れ、健康な村づくりに資する所存です。さらには、介護予防にも同じような考え方で取り組んでいかなければなりません。とりあえず本年度については、特定健診の受診奨励を行い、病気の早期発見と指導に力を注ぎます。

○農業振興について

本村は徳島市に近く、いつまでも農業が営まれている中山間地域の農村であるべきと考えています。そのためには、佐那河内米の生産、ミカン、スタチの栽培、園瀬川沿いの施設園芸の振興をJAと連携し進めます。また、中山間直接支払制度の第3期目が来年度をもって事業終了となりますが、地域の協働取り組みで農業振興、農地の保全、耕作放棄地の予防に努めます。さらに、農業振興の側面的な支援として、旧府能水力発電所跡の施設を再利用した水力発電の再整備や大川原高原に整備さ

れている風力発電の取り組みなどをさらに検討します。

国道438号新府能トンネルの残土処分場用地については、太陽光発電の施設の整備を進めています。これらの再生可能エネルギーの取り組みを促進し、売電益を農業振興、棚田保全、農業用水路の維持管理、鳥獣害防止、あるいは人手が入っていない森林の管理や水源保全に役立てていくため、さらに検討をしていきます。

鳥獣害対策では、神山町との協議会を設置し、事業に取り組んでいますが、防護ネットやモンキーダッグの育成をさらに進め、さらには野生有害鳥獣の駆除に猟友会の皆さまの力をいただき、野生鳥獣害対策にも力を入れていきます。

また、昨年度に購入しました奥川股地区の山林についても、保全管理に取り組み、本村上地区の水道水の安定供給と森林の多面的機能の向上に取り組みます。

○情報の発信について

本年4月から村のホームページを一新しました。今後は、さらに村の魅力や情報発信に努めます。また、観光パンフレットを新しく作成するための予算計上もしています。本村の若い女性職員が自主的に取り組んでいる村の広報姉妹版「Goochile（ごうちる）」もいろいろな方面から好感をいただいています。今後も

ご支援をお願いします。

○救急搬送体制について

数年前から徳島市との協議の場を持ちましたが、徳島市にも事情があり、本村の描く救急体制は現時点では困難となりました。しかし、徳島県で24時間体制の救急医療体制が整っていない自治体の一つであり、方向性が見出せるのにいま少しの時間がかかることとなりましたが、近隣自治体の動向も踏まえ、今後は本村独自でも可能な方向性を検討していきます。

その他、新しい小中学校での教育の効果や明日の本村を担う子どもの健全育成では、本村の農村環境を生かした子育てに取り組んでいきます。

国道438号一ノ瀬地区のバイパス工事については、一日も早い工事着工がされるよう県当局との連携を重ねます。主要地方道小松島佐那河内線大久保峠の改良についても、徳島市へ働きかけを行い、事業促進を図ります。

さらに、過疎法を活用したソフト事業の推進や水道、農業集落排水事業施設の適正な維持管理、行財政改革の推進あるいは村財政の健全な運営等にも努めますので、よろしくお願ひ申し上げます。

● 専決承認案件 ●

議案第47号 佐那河内村国民健康保険税条例の一部を改正する条例にかかる専決処分（専決第7号）の承認について

国の平成25年度税制改正の大綱において、国民健康保険法施行令の一

部が改正されたことにより、本村も改正するもの。

● 補正予算案件 ●

議案第48号 平成25年度佐那河内村一般会計補正予算（第1号）について

歳入歳出それぞれ4,662万9千円を増額し、歳入歳出予算の総額を23億8,662万9千円とするもの。

歳入の主なものについては、県補助金が緊急雇用創出事業交付金として、地域再生可能エネルギー普及啓発事業、大川原高原等再エネ施設環境整備事業として1,050万円の増

額、起債の繰り上げ償還をするための繰り入れとして、基金繰入金を308万5千円の増額、歳出の調整として繰越金を1,689万1千円を増額しています。

歳出の主なものとして、総務費では庁内パソコンの更新のため、備品購入費として500万円の増額、農業振興費では、人・農地問題解決推進事業として494万円の増額、農地費では、用排水路等整備工事、治山復旧事業工事として210万円の増額、商工観光費では、起業支援型地域雇用創造事業委託料として1,050万円の増額、土木費では、村道整備事業工事として510万円の増額、諸支出金の基金費では、新しく環境基金積立金として320万円の積み立てなどとなっています。

議案第49号 平成25年度佐那河内村簡易水道特別会計補正予算（第1号）について

歳入歳出それぞれ200万円を減額し、歳入歳出予算の総額を9,007万円とするもの。これは、人事異動に伴い人件費が減額になったため。

議案第50号 平成25年度佐那河内村農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）について

歳入歳出それぞれ80万円を増額し、歳入歳出予算の総額を1億8,542万円とするもの。嵯峨地区と高樋地区で事業を実施している農業集落排水機能強化対策事業の工事費が増加したため。

議案第51号 平成25年度佐那河内村介護保険事業特別会計補正予算（第1号）について

359万円を減額し、歳入歳出予算の総額を3億6,923万円とするもの。これは、人事異動に伴い人件費が減額になったため。

● 条例案件 ●

議案第52号 佐那河内村情報公開条例の一部を改正する条例について

開示請求に関する決定を国の行政機関の保有する情報公開に関する法律の規定を準用し、本村も改正するもの。

議案第53号 佐那河内村敬老年金支給条例の一部を改正する条例について

敬老年金の支給日を確定するために改正するもの。

● 報告案件 ●

報告第1号 平成24年度佐那河内村一般会計繰越明許費繰越計算書について

平成25年度に繰り越した繰越計算書を報告するもの。

一般質問

大岩和久議員

質 村政に対する思いをお聞かせください。①副村長の立場で、村の現状を踏まえ、村が生き残っていくために今後、どのような施策が必要であると思われるか。②中でも、緊急を要する案件については、具体的にどのような形がかかわっていくか。

答 ①②今後、農業後継者の確保問題が本村の最重要課題になると考えている。村として、この問題に早急に取り組む必要がある。

また、村では定住者促進のための移住交流支援センターを運営するため、国の集落支援員、地域おこし協力隊等の制度をうまく活用すること

ができないが、さらに、村内各種団体と協力しながら、空き家、空き地等の情報収集を行い、移住交流に関する相談を受けられないか検討している。この移住交流センターと農業後継者確保問題をうまく絡めていくことによって、一石二鳥の効果が出るのではないかと。

ひとり暮らしの人等については、村役場、社会福祉協議会、常会等によって把握できているが、後継者の有無、その所在、ご本人ご希望等については、これらの問題を的確に捉え、推進するためのデータが不足しているのが現状でないか。村内全体を対象とした実態調査を実施する必要があると考えている。

また、本村には豊かな自然、きれいな水、おいしい空気があるが、子育て世代の若者を定住させるために

は必要と思われるインフラが整備されていない。具体的には、少しのブランコや滑り台はあるが、子どもを一人で遊ばせても安全で安心して遊ばせることのできる子どものための公園がない。これは、若者定住者促進のためには致命的な欠点ではないかと。

また、私の夢になってしまうかもしれないが、村民の電気料金の無料化がある。現在、風力発電が行われ、今年度から太陽光発電施設も設置されようとしているが、これらは全て民間企業により建設されている。安定した風も村の天然資源とっているので、村自体による風力発電、あるいは現在計画されている水力発電を利用して、これが実現できないものか、職員とともに研究したい。

質 教育行政全般について①学校教育についての施政方針をお聞かせください。②社会教育及び、社会体育についても、施政方針をお聞かせください。③中でも、緊急を要する案件について、具体的な内容また、取組はどのようなものがありますか。

答 ①村の教育全般について、4点の視点で教育の質の向上を図り、質の向上に取り組みたいと考えている。1点目、教育環境の質の向上。2番目、教育活動の質の向上。3番目、運営機構の質の向上。4番目、活動組織の質の向上。活力があって、村民に信頼され、地域の特色を生かした教育活動を展開したい。②今後も精いっぱいサポートをしていきたい。特に村、地域の中で、特定の人に負担が多くなっていることを、少しでも解消できるように努力したい。地域や団体の皆さまからの要望にしっかりご意見を聞き、対応していく。③1点目、新校舎の検証ということで、施設面ではエアコンの設置等を検討している。PTA や学校の先生方の要望を真摯に受け、検討を進めていきたい。2点目、給食センターの改善。常時調理員の確保をするために、組織を強化したい。また、献立についても検証、検討を進めていきたい。

瀧 倉 俊 晴 議員

質 本村役場の機能充実について①本村役場機能のこれまでの問題点は何か。②どのような改善を行うのか。

答 ①②1点目、職場環境が余りにもよくないのではないかと感じている。現在の役場は築45年ほど経過した建物なので、情報化の発達した現在と、建設に当たったのコンセプトが全然違うということが最大の原因だと思うが、全体として、雑然

とし過ぎていると思う。根本的にこれを改善するためには、新しい庁舎の建設あるいは現建物の耐震化工事の際に執務室の改造を同時に行う等の必要がある。2点目、村長部局と教育委員会や選挙管理委員会等の行政委員会の職務権限が非常に曖昧になっていること。現在、全ての書類が村長や副村長の決済を必要としているが、これは大きな問題でないか。事務所改造に伴う経費の問題や、また職務権限の変更には、事務規定の見直しや今までの習慣等多くの問題があるが、全ての住民と行政が近い村づくりの推進という目的を達成するために、これらの改革は必要と考える。

質 村道大黒堤防線の、ゴミ集積所から健祥会ハイジまでの、拡幅改良について、対向できるよう、早急な改良が必要でないか。

答 この区間については、一気にできるかできないか、あるいは現状の通行量等を踏まえ現場を調査し、あるいはどのような有利な財源を確保すべきであるか等踏まえ、前向きに検討していきたい。

質 村道大黒堤防線の中辺橋から健祥会ハイジまでの待避所の設置について、4箇所程度の待避所が必要でないか。

答 この区間については、過去においても村道改良の必要性から試みた経過があるが、実現せず、現在に至っている。この区間を待避所あるいは全線改良となると、本村だけの判断で改良できないという問題点等が発生してくる。そうしたことを踏まえながら、どのような方向がいいのか、全線が開通という質問ではなく、待避所を設けるとい話なので、どの場所に待避所を設けたら、より趣旨にのっとった改良ができ、工事がやりやすいかを検討して、混雑状況等を調査し、考えていき

い。

健祥会ハイジの前のアジサイが植わっている箇所については、車が川に落ちないために車どめのコンクリート、あるいは人が川に転落しないために、ガードパイプ等の施工を考えていく。

仁 羽 悟 郎 議員

質 高齢者等の移動支援事業について①事業概要（予算と事業内容）について②目的について③運送区域、利用運賃、利用方法について、想定している利用客数④アンケートの必要性について、意義活用方法について⑤地元タクシー会社と十分話し合い、合意形成はなされましたか⑥地元タクシー会社の経営を圧迫しないための代替案は？⑦代替案で賛同が得られますか⑧神山方式にすれば、本村の対象者は、費用はいくらになりますか

答 ①事業の概要として、交通社会の状況の調査、ニーズ調査、運用していくための組織化、法人化、社会実験と評価作業、協議会を開催、年度内の目標をどうしたら達成できるか、住民タクシー過疎地有償運送をするための組織、その上に社会実験についてということを経営内容としている。事業費については、1,000万円。②道路運送法第80条第1項の許可に基づく交通機関空白の過疎地における有償運送事業を実施するに当たり、佐那河内村における生活交通サービスを維持し、住民等の利便性の向上を図ること。③全体像を具体的に決定していない。④事業成果が有効に取り組めるために行うもの。⑤実証実験をするためのタクシー会社との合意形成は至っていないというのが実態であり、今後、鋭意努力していかなければならない。⑥⑦過疎地有償運送をする制度の中で、タクシー会社にも協力いた

だける方法を考えていかなければならないが、現時点で穴埋めを完全にはできない案は、持ち合わせていない。タクシー会社に十分納得いただけるように、さらに努力する。⑧本村の場合、65歳以上の高齢者のみを対象としているが、5月末では51人がこのタクシーチケットを利用している。一方、神山方式を本村に適用すれば、助成対象者が70歳以上ということになるので、5月末で単純に70歳以上は826人になる。この826人が対象となるが、このうちの何人が申請されるかは予測できない。それと、神山町のタクシーチケットは助成券である。最低でも2分の1の負担が要ることになる。費用については、単純に神山町の1人当たりの費用を計算し本村にあてはめると、266万円という数字になる。

質 職員(保育士)の採用について、臨時保育士を本採用にできないか

答 将来の本村の子どもの数を勘案することが非常に大切であり、現時点で推測すると、急激にお預かりする子どもが減る傾向が出ている。あわせて子どもの減少に伴い、保育士の数が問題になり、本採用にすることは難しい。

松長英視議員

質 子育て支援に関連して、医療費の無料化を高校卒業までの子どもにすべきと考える。①県が無料化の年齢を引き上げた。高卒まで引き上げると村の負担はどれ程多くなるか(県の引き上げ分を考慮して)②子どもの人数を増やす方策をどう考えているか

答 ①中学生が少ない年であれば190万円から230万円、高校生が少ない年が180万円から270万円という結果が出ている。②人口対策をすることが一番と思っている。その人

口対策の目線としては、農村である以上、農業をしていただく人の確保が一番目でないか。その他の項目としては、保育所や小中学校での子育て、教育等の支援、あるいは農村としての魅力アップ、国道438号の整備等社会資本の充実、または女性が働きやすい環境等の人口対策をしなければならない。今年の4月から本格的に人口対策に取り組んでいきたい。

質 ゴミ処理について、協議会のスケジュール表から①今年度基本計画を作成し、来年度早々に組合設立の予定となっていますが、佐那河内のゴミ処理行政の利点はどこまでいかされているか②このまま進めて佐那河内にとってどんな利点があるか③噂では、処理施設は佐那河内村できまりなどと、ささやかれているが、どう考えるか

答 ①現時点では、まだ基本計画の策定には至っていない。本村の場合、村単独での建設は無理であり、中間処理施設を広域で行うことが利点の一つでないかと考えている。ごみの分別、再資源化等を進め、協議会に参加している市や町へも積極的に働きかけ、分別の輪を広げることが地域全体の利点になると考えている。②③いろいろな問題と対応策を検討し、広域化のメリットやデメリットを協議会で検討される。建設用地もまだ決まっていない。事業費の負担や廃棄物の運搬効率など多くの検討課題がある。具体的な基本方向が出たら、村の方向性を見きわめなければならない。

質 過疎地有償運送について

答 過疎地有償運送の予算については、今後の実証実験等事業を進めて行く上での必要経費を計上している。ただし、精算時には変更契約をし、実際にかかった費用をもって

精算する。

岡本隆次議員

質 村営住宅建設について①人口減少を食い止めるため、必要と思われるので、例えば若者を対象としたアンケート調査をしてはどうか

答 ①基本的に本村にある常会への加入や、地域活動など村になじみ、とけ込み、積極的な活動をしていただくことが何よりも大切でないか。村民あるいは常会、それぞれの地域等の理解を得て、住民の皆さまに参加いただき、考えていただきながら住宅施策を考えていくのがよいのではないかと、思っている。

質 山根玉峰氏の記念館をぜひお願いしたい①名誉村民第一号の先生の村に対する思いを村としてもこたえたいと思うがどうか

答 多くの意見を聞きながら、早速本年度から検討を進めていきたい。

長尾久代議員

質 教育方針について①学校教育、社会教育についての考えをお伺いしたい②ユネスコ活動についてどう思うか

答 ①保小の連携については、障害や特性のある児童の入学時の申し送りや、就学前の体験入学、あるいは小中学校のオープンスクールの活用、また運動会や行事の連携などを、これからさらに進めていく必要があるのではないかと。学童も放課後子ども教室ということで教育過程の活動の中の教育活動と、その活動外の放課後の子どもたちの活動の結びつき、子どもたちの学習に対する特性であったり、あるいは活動に対する特性であったり、あるいは障害であったり、そういったことを共有して、子どもたちのために活動をさらに広く、濃くしていく必要があると

考えている。②今後も地球環境を考
えることや国際平和や国際貢献の主
体を持つことは非常に大切であると
考え、このユネスコの精神に沿った
活動を続けていく、あるいは非常に
尊重していく。ユネスコスクールに
ついては前向きに、学校長と検討を
進めていきたい。

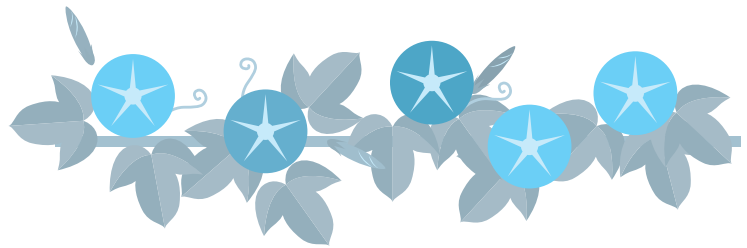
質 中山間地域等直接支払制度につ
いて①今後の見通しについて②
どのような課題があるか、またある
場合その対策について

答 ①この制度の継続を今日まで訴
えてきたし、これからも訴えて
いきたい。②1点目、協定への参加
者が少なくなることが想定される。

2点目、協定面積が少なくなること
が推測される。対策として、高齢化
あるいは後継者がいない場合など農
業生産活動の継続が困難になったと
きに、あらかじめ誰がどのように管
理するか、集落内での話し合い等
を通じて決めていく方法等を考
えなければならぬ。また、集落内
でできない場合は、地域の農業を担
うと位置づけされている認定農業
者、(本村には53人が認定されてい
る。)また新規就農者に農地の利用
権の設定を進め、有効利用を進めて
いきたい。本村でもこの事業を通じ
て、農地の保全、振興に取り組んで
いきたい。

質 旧中学校利用について①旧中学
校校舎はどのようにするのか

答 ①古い本体の校舎は、将来的に
も取り壊される方向にならざる
を得ない。ただし、ご提案いただいた調理室の利用については、耐震性
も含めて検討し、有効活用する方法
を考えていく。西ノハナの新しい校
舎は、役場の耐震工事をした場合の
仮の庁舎になる可能性もあるので、
現在までこのような形で今日を迎え
ている。しかし、役場の庁舎につい
てもそう遠からず方向性が決まるの
で、そうした方向が出たら、どのよ
うな方向で検討するのがよいか考
えていく。



議会行事出席報告

(場 所)
(出席者)

平成25年 6 月

- 6月4日 県知事との意見交換会 (中野議長他6人)

- 7日 平成25年第2回村議会定例会開会 (会期は14日までの8日間) (全議員)

- 11日 平成25年第2回村議会定例会2日目 学校訪問 (全議員)

- 13日 平成25年第2回村議会定例会3日目 一般質問 (全議員)

- 14日 平成25年第2回村議会定例会最終日 閉会 (全議員)

- 19日 小松島市外三町村衛生組合監査 (小松島市役所) (中野組合議員)

- 20日 青少年育成村民会議総会 (農振C) (大岩文教厚生委員長)

- 24日 6月分例月出納検査 (役場) (井開、長尾監査委員)

- 25日 村農業委員会総会 (農振C) (岡本農業委員)

- 28日 徳島県町村議会議長会臨時総会 (ホテル千秋閣) (中野議長、松下事務局長)

- 28日 徳島市議会正副議長就任あいさつ (役場) (瀧倉副議長)